

歳前技術士会25周年誌



目 次

- 巻頭言 [歳前技術士会創立 25 周年にあたって](#) (歳前工業会理事長 庄山 悦彦)
- 1 発刊にあたり
1. 1 [歳前技術士会創立 25 周年に寄せて](#) (科学技術部会長 中島 邦雄)
1. 2 [歳前技術士会 25 周年誌の発刊にあたり](#) (当会会長 齋藤 隆則)
- 2 担当幹事より
2. 1 [企画活動](#) (企画幹事 豊田 順一)
2. 2 [財政状況](#) (会計幹事 吉田 康夫)
2. 3 [広報活動](#) (広報幹事 三谷 明男)
2. 4 [ホームページと情報管理](#) (情報管理者 杉本 行正)
2. 5 [大学技術士会連絡協議会](#) (事務局長 原 眞一)
- 3 会員寄稿
3. 1 [戦争の思い出](#) (S16 旧制機械 永易 憲三)
3. 2 [古希を過ぎての技術士受験](#) (S21 旧制金属 若狭 仙治)
3. 3 [理工俳句歳前吟の系譜](#) (S26 旧制化工 高瀬 昭三)
3. 4 [科学と技術について](#) (S27 旧制化工 上杉 伸二)
3. 5 [海軍軍歌・ゼロ戦・風立ちぬ](#) (S28 旧制化工 佐久間 精一)
3. 6 [向嶽寮の思い出 ― 炊事委員奮闘の記](#) (S28 旧制機械 倉員 嘉郎)
3. 7 [続：雑感～KRPE 25 周年に寄せて～](#) (S28 化工 4 S60 博 植村 勝)
3. 8 [工学とエンジニアリング](#) (S29 化工 1 H5 博 小松 昭英)
3. 9 [私の歩んだ道](#) (S30 化工 4 S44 博 村谷 俊雄)
3. 10 [当会諸先輩のご指導に感謝](#) (S32 化工 6 尾島 正男)
3. 11 [放射性廃棄物の処分、その未来技術](#) (S32 電気 麻生 和男)
3. 12 [技術士制度活性化の課題](#) (S32 電気 古賀 高志)
3. 13 [この 25 年を顧みて](#) (S32 電気 佐分利 昭夫)
3. 14 [90 過ぎてもお元気な大先輩の健康法](#) (S33 化工 松平 忠志)
3. 15 [歳前技術士会 25 周年を祝して](#) (S33 化工 廣川 一男)
3. 16 [歳前でつながる縁](#) (S33 化学 鹿子木 基員)
3. 17 [歳前技術士会と過ごした 24 年間](#) (S36 機械 佐鳥 聡夫)
3. 18 [歳前技術士会の技術士受験講座](#) (S37 電気 鶴岡 寛治)
3. 19 [歳前技術士会を回顧して](#) (S37 機械 渡辺 秀也)
3. 20 [市川大先輩を通して学んだ台湾のこと](#) (S38 機械 塩田 潔)
3. 21 [歳前技術士会とくらしか](#) (S38 化工 S40 修 化工 H6 博 山岸 千丈)
3. 22 [福島原発事故について](#) (S44 応物 S46 修 原子核 横堀 仁)
3. 23 [初代会長 市川英彦氏を偲んで](#) (当会顧問・前会長 佐鳥 聡夫)

4 [活動報告 例会・見学会その他開催行事实施記録](#) (事務局長 原 眞一)

[平成21年度 \(第123回～第129回\)](#)

[平成22年度 \(第130回～第136回\)](#)

[平成23年度 \(第137回～第142回\)](#)

[平成24年度 \(第143回～第146回\)](#)

[平成25年度 \(第147回～第150回\)](#)

5 参考資料

5. 1 [蔵前技術士会規則](#)

5. 2 [幹事と役割分担](#)

5. 3 [会員名簿](#)

[編集後記](#)

(佐鳥 聡夫、吉田 康夫、杉本 行正)

3. 2 1 蔵前技術士会とくらしか

くらしか代表 当会元事務局長 S38化工S40修化工H6博 山岸 千丈

技術士でもない私が蔵前技術士会に入会したのは平成16年、会社の退職1年前でこれからの有り余る時間をどう過ごそうかと悩んでいた時でした。窯業同窓会・蔵前技術士会共催の講演会でヨット部の先輩である前会長の佐鳥さんにお会いし、顧問という閑職で暇を持て余している旨をお話したら蔵前技術士会への入会を勧誘され、以来、技術士会の例会(講演会)に顔を出すようになりました。技術士会入会の成果は、久しぶりに例会で顔を合わせた同期の持田氏からお茶の水女子大の社会人コースでセメントの講義担当を頼まれ、その引受け母体となっている化学工学会傘下のSCE-Netに参加したこと、また、「蔵前理科教室ふしぎ不思議(略称くらしか)」に参加したことです(現在、前代表の高橋さんの後をついで4代目のくらしか代表を務めさせてもらっています)。

そうこうしているうちに事務局長だった佐鳥さんが会長になられることになり、事務局長の引受手がないのでお前やってくれないかとの依頼、「技術士でもなく幹事の経験もない私には事務局長は無理です、会計位ならお手伝いします」と申し上げましたが、結局はヨット部の大先輩のお申付けで、事務局長と会計の両方を引き受けざるを得なくなりました。事務局長としての思い出は総会ごとの資料の印刷・製本(現在は合理化しやっていないようですが、一人編集から総会参加人数分をコピーし綴じるのは結構大変な作業でした)、会計をやりくりしてくらしかにPCとPJを各2台提供したこと、それに20周年誌の編纂でしょうか。20周年誌の編纂には何しろ私の入会以前からの活動記録を集めなければならず、PCの故障などでデータが残っていないと言われる方も多く編集(データ集め)には苦勞しました。

しかし、お陰様で、退職後にどう時間をつぶそうかと悩み、ハッピーリタイアメントとは程遠い心境だったのが、一転うそのような充実した生活を送れたのは有難いことでした。特にくらしか活動は「日本は資源貧乏国、だから資源を輸入し加工し製品として輸出することが大事」と小学生の担任の先生に教えられた私にとって、日本の将来を担う児童を理科好きにして科学技術立国とする人材育成で社会に貢献をしているという満足感には大きいものがあります

ここで蔵前技術士会を母体としてH17年に発足し、H21年に蔵前技術士会から離れ、科学技術部会直属となった「蔵前理科教室ふしぎ不思議(略称くらしか)」の20周年記念誌以降の活動を記載しておきたいと思います。

くらしか活動の仕組みは図-1に示しましたが、創設以来の出前方式の寺子屋式理科教室の形を現在でも続けており、基本方針は多少表現を変えて以下のようにHPに記載していますが、発足当時からの方針を踏襲しています。

- ①【簡単】身近な材料を使った工作と実験を、参加者全員が行います。
- ②【楽しく、分かり易く】テーマの科学的な原理・法則や動作の仕組みなどを、分かり易く説明します。
- ③【安全、安心、丁寧に】シニア世代や現役で活躍中の技術者・研究者・教育者が、参加者5~6名に1名ついて懇切丁寧に指導します。
- ④【皆で楽しむ】参加者が工作した教材を持ち帰りますので、ご家族と一緒に実験の再演ができます。

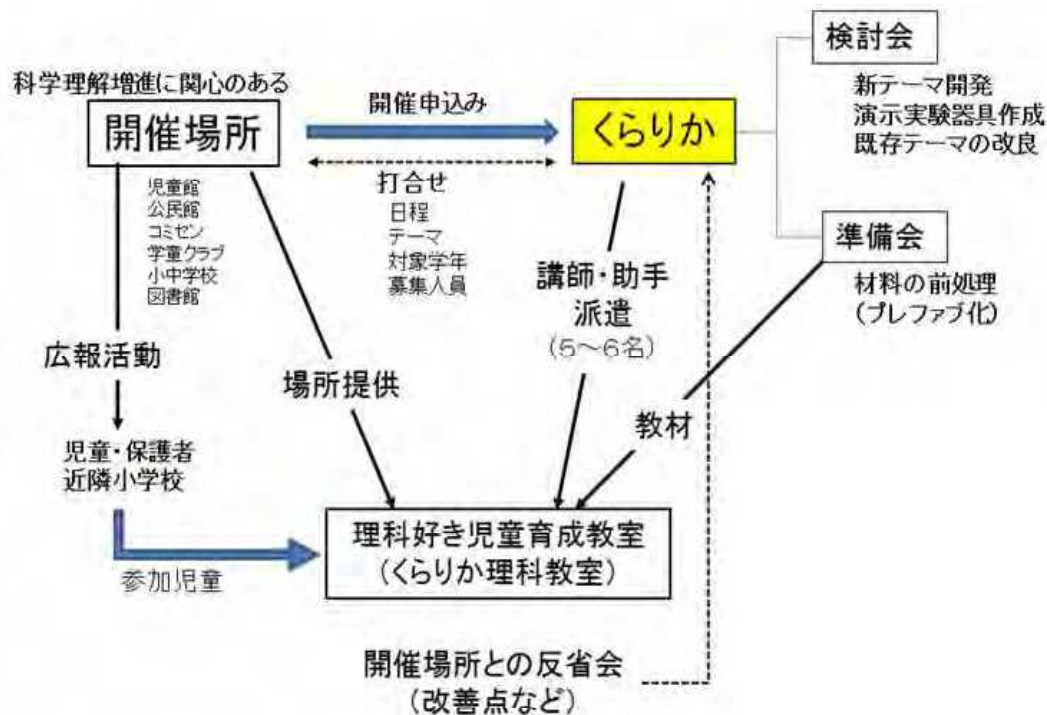


図 - 1 くらりかの理科教室の運営方式

理科好き児童育成教室では必ず児童一人一人にもの作りをさせ、併せて原則の説明を行い、工作・実験で落ちこぼれを作ると理科嫌いとなるので児童5～6名に1名の指導者をつけるということは今後も継続していきたいと考えています。また、教室や保護者向けの持ち帰り資料では蔵前工業会（東京工業大学の同総会組織）の支援を受けている旨を記載し東工大の宣伝をも意識して活動しています

しかし、次頁の図-2、図-3に示すように、教室数・参加児童数はくらりか創設以来年々増加しております。現在、くらりかの会員数は、HQ（くらりか本部）と称している東京・神奈川・埼玉・千葉の首都圏で93名ですが、その1/3は休眠会員であり、活動の5割は十数名の会員で維持されている状況です。関西では会員が10名と少ないので、協力員という制度を設けて燕友会や関西5支部で24名が協力員として登録していますが、ほとんどの活動は会員でなされています。静岡ではわずか5名の会員で活動が維持されており、いずれも活動メンバーの高齢化も進んでいるので、若いメンバーの増員が喫緊の課題です。

以前から助成金を受けていた科学技術振興機構（JST）関係ではH21年にはメンバー10名が「地域科学技術理解増進活動推進事業・地域活動支援」に申請し助成金を13件受け（一人で複数件助成を受けているメンバーがいる）、H22年度には「地域の科学舎推進事業・地域活動支援」の「機関型」の助成金を蔵前工業会名で申請し4件が採択され、同事業の「草の根型」ではメンバー11名が助成金を受けました。H23年度は「地域の科学舎推進事業」が「科学コミュニケーション連携推進事業」と変わり、蔵前工業会名で申請した「機関活動支援」は不採択でしたが、個人申請の「草の根型」助成事業ではメンバー10名が採択されました。その後H24年度以降は我々のような教室形式の活動は科学技術振興機構の助成には全く採用されなくなりました。

また、科学技術振興機構が日本科学未来館で主催するサイエンスアゴラに出展し、H23年にはサイエンスアゴラ賞、H24年には来場者特別賞を頂きました(H25年は2年続けての助成申請が不採択だったので、手間暇かかるサイエンスアゴラへの出展は見送りました)。

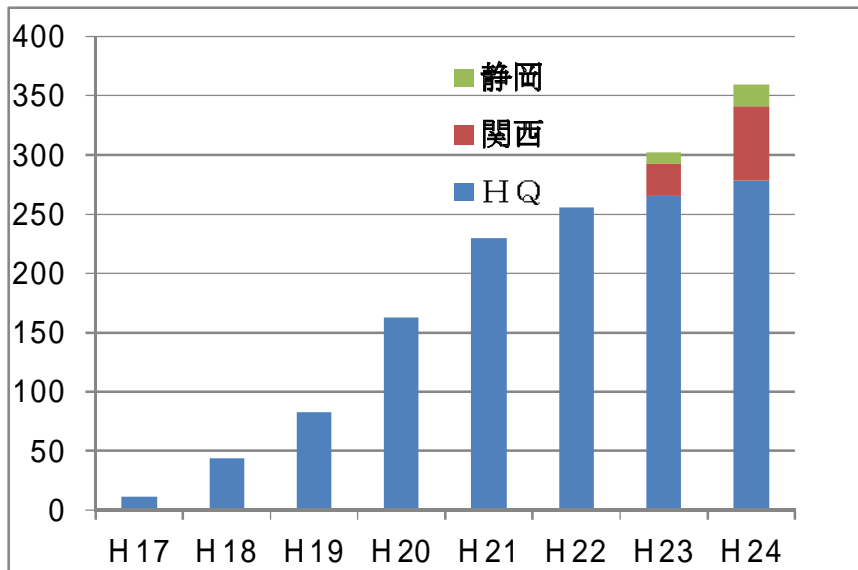


図 - 2 開催教室数 (イベントも含む) の推移

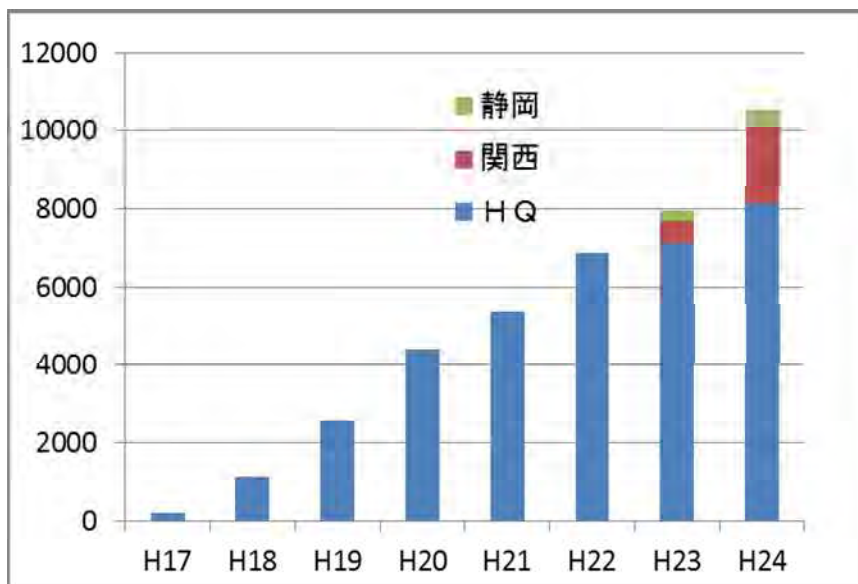


図 - 3 参加児童数の推移

東京応化科学技術振興財団の「科学教育の普及・啓発活動」では、平成20年度以来毎年続けて助成対象に採択されており25年度も助成金を頂いています。また、同財団の声掛けで、くらしかが理科教室で行っている21テーマについて、工作・実験の要領と原理や科学史などの解説を記述した「ふしぎ不思議

議の理科教室「楽しくできる実験と工作」という本をメンバーの共同執筆で東京書籍よりH24年8月に出版しました。

科学技術館で毎年7月に行われる科学の祭典にはH22年度より電気・電子・情報通信産業経営者連盟に協力し、本年まで4回参加しているほか、科学の祭典の千葉大会にもH24年より参加、千葉大会はブース形式で原理・原則の説明が出来ないのでH25年度は不参加としていたところ、主催側から部屋を用意するので是非参加してほしいとの要請があり今年は教室形式で参加しました。また、去年は科学技術館のサイエンス友の会の実験教室に協力し浮沈子をテーマに4回連続のシリーズの教室を企画・実施し好評をえたので、本年度も振動をテーマに、4回連続のシリーズ教室を計画しています。

H23年にはくらしか関西代表の篠田さん、くらしか静岡代表の釜洞さん等の努力により関西圏・静岡県での活動も軌道に乗りました。蔵前工業会の関係支部との連携で香川県、鹿児島県、秋田県でも教室を開くなど地方展開も進みました(図-2、図-3ではこれらの教室はHQ:くらしか本部の教室数に含めています)。

H24年度には全国で理科好き児童の育成教室を359教室(イベントも含む)開催し、参加児童数は1万名を越え10,523名となり、開催都道府県は、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、静岡県、大阪府、兵庫県、島根県、鹿児島県、秋田県と広がりました。

また、ものづくり教育研究支援センター長の山田明教授のお名前をお借りし「作って実感する理科のふしぎ体験教室」として、東工大基金事業の「日本再生:科学と技術で未来を創造する」プロジェクトーものづくり人材の裾野拡大支援ー」に応募し採択され、山田教授より蔵前工業会に事業委託という形をとってくらしかが実施を担当しました。H25年度も東工大基金事業に申請し採択されています。

H25年5月の蔵前工業会総会で、「年間1万人を超える子供たちに科学技術の面白さすばらしさを提供するまでに発展し、一般社団法人蔵前工業会の大きなミッションである科学技術の振興と教育の発展に大きく寄与し、本会の声価を著しく高めた」として蔵前工業会特別表彰を受けました。

H25年度から東北の被災地支援をものづくりセンターの職員の方から依頼された岩手県の大槌町大念寺(大黒さんが町の教育委員を務める)の教室を皮切りに、福島県の南相馬市、岩手県の釜石市などで教室を開催しております。

一般的な教室では小学校低学年が主体となってしまうので、小中学校の理科の正規授業に食い込めないかと考えています。HQの実績では大田区の「おもしろ理科教室」でH24年度には5校、5・6年生を対象に17教室を開催、神奈川科学技術アカデミー(KAST)の「なるほど!体験出前教室」で3校・9教室、埼玉県の私立中学校2校・8教室の合計34教室で、本年も同程度の開催を予定しています。しかし、地方では小学校の授業への食込み比率は高く、関西では24年度は特別授業として5校・13教室、25年度は8校・13教室と伸びる見込みで、静岡でも24年度は3校・12教室、25年度は6校・16教室と伸びております。

以上